

# 税理士法人 アップパートナーズ

代表社員税理士

菅 拓摩

Takuma Suga

業務部福岡1課

中山 朝哉

Tomoya Nakayama

## Profile

■ 菅 拓摩：1973年生まれ、福岡県北九州市出身。立命館大学大学院経営学研究科修了。2001年に父の事務所を承継後、2006年に税理士法人アップパートナーズを設立。代表社員税理士に就任。福岡・佐賀・長崎など北部九州を中心に7拠点を構え、「日本一お客様に頼りにされる企業体」を目標に、現在はクライアント数約2500社・社員数約320名のアップパートナーズグループの代表として活動。人材教育にも尽力しており、現在も積極的に若手社員に同行して、お客様へ増収や節税など各種コンサルティングを行う。主に医療分野、事業承継コンサルティングに力を入れている。

■ 中山 朝哉：1991年生まれ、福岡県大野城市出身。長崎大学経済学部経営学科卒業。卒業後は長崎の地方銀行に入行。銀行では個人営業・ローン・融資業務に従事。融資業務ではスタートアップ企業の創業支援や、地域中小企業の資金繰り改善支援等のサポートを行った。2019年に税理士法人アップパートナーズへ入社。銀行員時代の経験を生かし、会計業務のみならず、企業の財務コンサルティングや資金繰り支援・新規開業支援等の業務を行っている。

## Contact

福岡県福岡市博多区博多駅東2-6-1 九勸筑紫通ビル9階  
<https://www.upp.or.jp/>

More Details



九州最大級の税理士法人グループが見据える未来。  
社員の努力を還元し、幸せに働ける環境を作りたい

## 強固な経営基盤を構築し、社員の成長を後押しする

福岡に本部を置き、佐賀、長崎、東京に計7拠点を展開する税理士法人アップパートナーズは、医療・介護業界の顧客を中心に、取引先件数2500件を超える実績を持つ。1977年に菅の父が税理士事務所を創業。2001年に菅が承継してから今日に至るまで、着実に顧客数を増やし、組織を拡大してきた。

その理由について、代表社員税理士の菅 拓摩は次のように話す。

「成長段階の企業から売上規模の大きい企業の案件まで、幅広く取り扱っています。安定した経営基盤がなければ、社員は安心して仕事に臨むことができませんから」

税理士法人アップパートナーズが中核となる「アップパートナーズグループ」は、九州最大級の士業グループだ。同グループは、社会保険労務士法人かぜよみや司法書士法人ハート・トラストなど、計8社で構成されている。税理士だけでなく、公認会計士や社会保険労務士、司法書士など、各分野の専門家がいるグループとして幅広い領域の問題をスピーディーに解決できることが強みだ。

グループ全体の協力体制と長年培ってきた知見やノウハウを強みに持つ自社について、業務部福岡1課に所属する中山朝哉は、自身の入社当初を振り返りながらこう語る。

「前職は銀行勤務で、税務や会計の業務経験はゼロの状態で入社しました。そんな自分にとって、さまざまな分野にわたる豊富な専門知識を持つ社員が在籍し、お客様からの要望にワンストップでお応えできる環境があることは、とても心強かったです」

手を挙げれば、自分が望む仕事を任せてもらえることもやりがい、と中山は続ける。「同じことばかり繰り返していても成長しない。できなくてもいいからまずはやってみてほしい」。そうした昔の考えが、社員の意欲を尊重し、新たなチャレンジを後押しする風土の醸成につながっている。

とはいえ、入社間もない社員にいきなり顧客対応や単独での業務を任せるわけではなく、教育にはじつくりと時間をかける。

「研修が不十分なまま現場に出ても、社員に大きなストレスがかかるだけです。まずは会計処理や帳簿作成から基礎知識を習得し、自信を付けてほしい。最初の成長スピードはゆるやかに思えるかもしれませんが、2年目、3年目からぐっと伸びます」(菅)

「いきなり現場に出たとしても、おそらくそれなりの対応はできたでしょう。でもそれはあくまでも小手先の知識や技術に過ぎません。菅が言うように、下積みを重ねたことで、自信を持てるようになったと思います」(中山)

## お客様に役立つ情報を届ける。 その一心で組織拡大に取り組んできた

2001年、前代表である父から事務所を承継した菅は、課題を感じていた。当時構えていたオフィスは伊万里（佐賀県）のみ。地場産業の衰退や経営者の高齢化を目の当たりにし、地元だけで自社の経営を継続できるか、不安を覚えた。50人の社員を守っていかねばならない。その想いを原動力に、自身の出身地である福岡の知り合いを中心に足しげく企業を回り、つながりを増やしていった。

しかし、システマチックな営業やマーケティング戦略には頼らなかつた。当時心がけていたことはただ一つ、「毎回、お客様の役に立てる置き土産をすること」だったという。「一つでもいいから、お客様の困りごとをヒアリングし、解決できる提案をすることを意識していました。すると、事業拡大や資金繰りといった経営課題だけでなく、人事関係のトラブルなど、企業が抱える課題が多岐にわたっていると分かった。お客様からのヒアリングから得た気付きをきっかけに、社労士法人を立ち上げ、その後も企業の悩みに応じた組織を設立していきました」（菅）

中山が入社した2019年には、すでに盤石な経営基盤が確立されていたが、大きくなつた組織にありがちな、上下関係や全体主義の風潮が一切ないことに驚いたという。「きつちりと管理されたり、あれこれと指示されたりすることはありません。フレキシブルに働ける環境は、仕事のクオリティーやパフォーマンスの高さにも表れると思います。『自由に働く方が楽しいから』と言ってくれる菅に感謝しています」（中山）

中山は現在の仕事に満足しつつも、「難易度の高い業務をして、レベルアップを図りたい」と、さらなる高みを目指している。

菅もまた、ビジョンを思い描いている。しかし「大きな野望はない」と笑顔を見せる。「組織を大きくしたいとか、社員数を何千人にしたいとか、そうした目標はありません。私の希望は、社員が稼いだ売上を、彼ら自身に、報酬としてできるだけ多く還元すること。中山をはじめとする優秀な社員たちは、新規案件やビッグプロジェクトなど、顧問料以上に高い価値を会社にもたらしてくれます。私自身、こんなに楽しく仕事ができているのも社員がいるから。だからこそ、彼らが働き続けたいと思える組織を作っていきたいですね」

九州最大手級の税理士法人。お客様の未来をともに創造していくことを目的に、税務や人事労務、事業承継、資産運用など、あらゆる経営課題にワンストップで対応しています。経営者のパートナーとして信頼され、感謝される日々がアップパートナーズにはあり、税理士業界での可能性を最大限まで伸ばせる事務所です。